

佳作

ナナフシモドキのけんきゅう

埼玉県伊奈町立小針小学校二年 川田 将也

ぼくが、ナナフシモドキというこん虫に出会ったのは、きよねんの四月です。一ぴきでいると大人しいし、うごきもゆらゆらゆれたりかわい虫です。

きよ年の夏休みに、どうしてもじゆうけんきゅうをしたくて、ぎたいかについてしらべました。ナナフシモドキは、まわりの色に合わせてみどり色やちやいろに色が変わることなどが分かりました。その中で、メスだけでタマゴをうむ虫ということが分かりました。そのため、オスはひじょうにめずらしく日本で十数れいしかほうこくされていないそうです。今年の四月に、ぼくのいえのにわでたく山のナナフシモドキのよう虫が見つかりました。一年生の時ぼくがかっていたナナフシモドキのタマゴが、かえったのだと思います。ぼくが大すきな虫なので、見つけたよう虫をぜんぶかいました。そうじの時じう

じゆうじやとにげようと出てくるので、かぞくできようカしてやりました。

かんさつしながらかかっていると、六月はじめに、みんなよりすこしくろっぼい色のよう虫をみつめました。おしりの形もすこしちがいます。はじめはびよう気だと思いましたが、かんさつをつづけると、めずらしいオスだと分かりました。

二年生でのじゆうけんきゅうでナナフシモドキのオスのとくちようやせい長をみんなに知ってもらいたいと思えました。わけは、オスをよう虫からかさつしたのは、日本でぼくだけだと思ったからです。でも、そのためには字をたく山書かなければなりません。ぼくは字を書くのが大きらいです。おかあさんには、

「きたない字だと、だれも見えてくれないよ。きれいに書けるの？」

と聞かれましたが、ぼくは「できるよ。」

と言いました。でもオスのこといがいに、あしのさい生とたまごの数のかんさつのこと書きたかった。ので、もぞう紙にハまいも書くことになりました。がんばって書きましたが、さいごの一まいは早くお

わらせたくて、てきとうに書いてしまいました。でも、それを見た時、ていねいに書けばよかったと、こうかいしました。すごくなやみましたが、書きなおすことにしました。大へんでしたが、さくひんを見るとうれしかったしがんばってよかったと思いました。